

平成20年度第1回
千葉市食育推進協議会
議 事 録

保健福祉局健康部健康企画課

平成20年度第1回千葉市食育推進協議会 議事録

1 会議の名称

平成20年度第1回千葉市食育推進協議会

2 開催日時

平成20年8月1日（木）午後2時00分から午後3時30分

3 開催場所

千葉市中央区千葉港2番1号

千葉中央コミュニティセンター 8階会議室「千鳥・海鷗」

4 出席者

（1）委員

稲山節子委員、阿左見葉子委員、飯塚芳子委員、神野茂美委員、小林道彦委員、
斉藤昌雄委員、須藤謙委員、樋垣芳恵委員、藤沼照雄委員、村井早苗委員、
山田昌彦委員（副会長）、渡邊智子委員（会長）

※欠席委員 大古場文夫委員、小川清照委員、篠原ともえ委員

（委員15人中12人出席）

（2）事務局

健康企画課課長、健康企画課主幹、健康企画課長補佐、消費生活センター所長、
生活衛生課長、保健所保健指導課長、子ども家庭福祉課長補佐、子育て支援課長
補佐、保育課長補佐、高齢福祉課長、資源循環推進課事業系推進係長、経済部経済
振興課参事兼課長、農政課長補佐、農政センター農業振興課長、農政センター営
農指導課長、教育委員会総務課長補佐、教育委員会指導課長、教育委員会保健体
育課長、教育委員会生涯学習振興課長補佐

5 議題

- （1）千葉市食育推進計画策定業務フローについて
- （2）千葉市食育推進計画骨子案について
- （3）インターネットモニターアンケートの調査結果について
- （4）その他

6 議事の概要

冒頭、千葉市食育推進協議会設置要綱第6条第2項の規定により、委員の半数以上の出席があるため、会議が成立している旨、事務局から説明を行った。

（1）千葉市食育推進計画策定業務フローについて

事務局から、千葉市食育推進計画策定業務フローについて説明した。

(2) 千葉市食育推進計画骨子案について

事務局から、千葉市食育推進計画骨子案について説明し、質疑応答を行った。

(3) インターネットモニターアンケートの調査結果について

事務局から、インターネットモニターアンケートの調査結果について説明し、質疑応答を行った。

(4) その他

事務局より、各委員に食育関係のデータの提供と、骨子案に対する意見・要望の提出を依頼した。また、会長が千葉県食育推進計画の策定状況等を説明した。

7 会議経過

(1) 千葉市食育推進計画策定業務フローについて

事務局から、千葉市食育推進計画策定業務フローについて説明した。委員からの質問、意見はなかった。

(2) 千葉市食育推進計画骨子案について

事務局から、千葉市食育推進計画骨子案について説明し、質疑応答を行った。

【発言要旨】

<委員>

14ページ5章の「食育の推進・連携のイメージ図」で、「学校と保育所」となっているので、幼稚園も入れていただきたい。

<事務局>

そのようにさせていただく。

<委員>

調理に慣れるために、家庭において親子で料理を作るということを、基本施策の「家庭における食育の推進」の項目の中に入れていただきたいと思う。

<委員>

9ページの基本理念の例のところに、『様々な経験を通じて、「食」に関する正しい知識』と書いてあるが、「正しい知識」が何かということが、なかなかわからないので、「食」に関する正しい知識とは、基本的にこういうことだという説明があるといいと思う。また、保育園や幼稚園では、母親達が聞きたいけれど、なかなか聞けない食に関する様々な質問があるのではないかと思う。なので、保育園や幼稚園の母親達が、食育について、今どんなことを知りたいと思っているかということ調べていただくと、計画に反映でき、コラムなどにも活用できると思う。

<委員>

ライフステージごと食育の推進が、大事だと思っていたので、それが入っていてとてもよいと思う。ライフステージごとの食育の推進のなかで、保育園などに通うようになってからの乳幼児期は、栄養士さんや学校の先生などの食育の担い手がいるが、リラックス館に集まってくるような、普段は家庭にいる0歳児から3歳児やその親には、保健師さんの定期的な指導くらいしか情報を得る機会がない。私も0

歳から3歳児の食育を展開してみたいと思っているけれども、「食育」といった時に、親たちが何に関心があり、何を知りたいと思っているのかというニーズの把握がなかなか今までされなかったので、ニーズの調査が必要だと思う。それから、高齢期の方々というのは、食育について中身を理解するのがとても難しいように思える。高齢期の方々が、健康に過ごすために、自分はどうしたらいいのかということも、少し空白期になっている気がするので、その辺のニーズ調査も大事だと思う。このあとインターネットで調査された結果の説明もあるが、私のところでも30代、40代の女性を中心にアンケートをとっている。しかし、30代・40代の女性以外のアンケートというのが、なかなかあがってこないで、学生のニーズなどもぜひ聴いてみたいと思う。

<委員>

学校に行っている間は、給食があれば1日のうちの3分の1の食事については、みんな一緒なので保証されている。そういった意味では比較的健康に関する課題というのがみんな共通して理解できるが、生まれてすぐの子と、高齢になってからというのはかなりばらけている。高齢者の場合はちゃんと食事ができているにもかかわらず、若い人とあまりに違うために、疑問を持ったり、心配になっていることもあるようなことを垣間見たりする。乳幼児期については、まとめて0から5歳となっているけれども、中身を少し区分するなど、工夫が必要ではないかと私も思う。

<委員>

乳幼年期のお子さんや赤ちゃんに対する食育というのは、妊産婦に対する食育がとても大切だと思うが、このライフステージの区分でいうと、妊産婦はどこに入るのか。妊婦の時から、食育に関してきちんとした情報提供をしていかないと、生まれてしまってからでは遅いのではないかなと思う。それから、二十歳くらいの年代は、大学生だったり、卒業したてであったりとか、本当は一番食事というものを大切にしなければいけない年代だと思うが、逆に食事に関して、食育に関しては、一番関心が低いのではないかなと思われる。この年代に対する食育の推進体制は、5章の推進体制のイメージ図でいうとどこに該当するのか少し疑問に思った。

<事務局>

現時点では計画の骨子なので、詳細について申し上げることは、なかなか難しい。ご指摘の二十歳前後ぐらいの方に対する食育については、従来の市政だよりなどの周知とあわせて、今後はやはり、インターネットを活用して推進していくことになるのではと考えている。

<委員>

「妊産婦」や「高校卒業したあたり」というのは、とても大事なところである。高校を卒業したあたりで身長伸びが止まり、それ以上大きくならないのに、そのままの調子で食べていくと、そこで第1回目にメタボリックシンドロームになりやすい状況に陥るので、高校卒業する時に、食事に関して伝えることは、とても大事だと思う。また、インターネットでの啓発という回答が事務局よりあったが、ある会社の話で、健康診査の受診率が低いので、「格好良くなる」とか「きれいになる」

というキャッチコピーを出したら、受診者がすごく増えたという。このように、対象者が関心を持つような広報をしていくことにより、「高校を卒業したあたり」の世代に何かできるように感じる。

<委員>

先程、乳児期の情報が少ないのではないかというお話があったが、千葉市の保育所の栄養士会のが作成している「千葉市保育所保育サイト」というホームページがあり、そのページから、ある程度の情報は得られるようになっている。今すでにあるこのような情報も活かしていただければと思う。

<委員>

先ほどの事務局のお話にあったように、千葉市の保育所、学校にはほとんどの施設に栄養士が一人ずついて、自主的に研修会も行っている。また、千葉市の保育所の場合は、所長先生が健闘していて、調理員が足りない時は、一緒に給食も作っている。このように、保育所全体をあげて給食を作っていて、そしてそれを子ども達が理解している。そういった特徴を活かすことができればと思う。また、私立の幼稚園などでもいろいろ工夫されていると思う。保育所と幼稚園がうまく連携して、乳幼児のためのいろいろな情報提供をし、お母さん方の悩みに対応できる方法があればいいなと感じた。

(3) インターネットモニターアンケートの調査結果について

事務局から、インターネットモニターアンケートの調査結果について説明し、質疑応答を行った。

【発言要旨】

<委員>

インターネットモニターとして登録している方に、もう1回アンケートをとることは考えているか。食育の認知状況の全体のパーセンテージがでていますが、年齢別や職業別の回答を調べれば、食育推進計画を立てるにあたって参考になるのではないかと思う。先ほど発言させていただいた「20歳代」というのは、職業別では「学生」に入ってくると思う。27人とすごく少ない数だが、食育に対して意識が低いだろうと考えられる年齢層のこの27人の回答は貴重だと思うので、この方たちがどの程度まで、食育について知っていたか知りたいと思った。それから、「日頃から健全な食生活の実践のために活動や行動をしているか」という設問に対し、「積極的にしている」と回答した方が、具体的にどんなことをしているのかというのは、聞くことができないのか。インターネットモニターアンケートに答えてくれた方は、かなり意識の高い方だと思う。それにもかかわらず、この「食生活の実践のために活動や行動をしているか」という問いに対して、「したいと思わないししていない」と答えた人がいる。このように回答した人は、アンケートに答えて意識が高いにも関わらず、どうして「したいと思わないししていない」のか理由を聞いてみたいと思った。

<事務局>

インターネットモニターアンケートについては、全庁的に年間計画のもとに実施しているアンケートである。食育推進計画の策定は、千葉市の施策として非常に重要であると認識しているが、他部局でもこのインターネットモニターアンケートを実施したいと考えており、食育のアンケートだけ継続的に実施するのは難しいと思う。また、今回示したいろいろなデータは、少々大まかなデータとして報告させていただいた。インターネットモニターアンケートは、基本的には「はい・いいえ」で回答するアンケートであり、具体的にどんなことをしているかというところまでは把握していないので分析は難しい。ただ、年齢別・職業別にどのような回答をしたかというのはある程度わかると思う。

<委員>

アンケートについて、千葉市ではいろいろなアンケートをしていると思うが、このインターネットモニターアンケートの結果は、市民の意見がある程度反映されていると考えているのか、それとも参考程度と考えていろいろな施策を考えているのか、どのようなスタンスなのか。

<事務局>

今回、全体で 1004 人のモニター数に対して、約半分の 516 人の方から回答をいただいた。これについては、委員の皆様方からもご質問があったが、非常にラフな質問となっている。この内容については、もう少し詳細に分析して、食育推進計画の中に反映できるものについては反映していきたい。また、健康部として非常に大きな数字で驚いたのは、食育の認知状況で、「言葉も意味も知っていた」という人が 60%を超え、それから、食育の関心の有無についても、「関心がある、どちらかといえば関心がある」を合わせると、90%近くと非常に関心が高い。この背景として、中国産の冷凍餃子の問題や、その後もメディアを賑わした偽装問題等の食の安全の問題が考えられ、このようなことが、食育の関心度に現れたのではないかと分析している。インターネットモニターアンケートの結果をどのようなスタンスでとらえているのかについては、食育推進計画に入れられるものについては、当然入れていくと考えている。

<委員>

『6月が「食育月間」で、毎月19日が「食育の日」と知っていたか』という質問項目で、他のアンケート結果に比べると非常に低い結果が出ている。これに関しては、私どものところでも「食育月間」「食育の日」をPRし、努力しているが、なかなか伝わらないというジレンマを抱えている。関係省庁に「食育月間」には国としてはどのようなことを計画しているのかと前々から聞いても、年度が変わるまではきちんと発表できないなど、きめの細かいことは難しいようである。また6月は「食育月間」だが、「環境月間」でもあり、そちらの方がはるかに有名で、「エコ」という切り口でニュース、テレビ特番など、市民・国民の注目が集まっているという部分がある。関係省庁のスタンスは、「6月は食育月間、毎月19日は食育の日」というのは、国民に食育に親しんでもらう月、日である。あなた方は、この切り口を

使って、どのように自分たちで食育推進を展開するのか」というものである。いわば、自分達がこの「食育月間・食育の日」をどのように、人々にPRしているのか、それともししていないのか、ある意味、通信簿になっているのではないかと思い、知名度の低さに私どもも大きく反省している。私どもとしても努力が足りないという認識ではあるが、そういう意味を含めて素朴な疑問として、「食育の意味も言葉も知っていた」方が60%もいたのであれば、食育月間や食育の日の認知度がもう少し高くてもいいのではと思う。このようなアンケートの時は、どうしても自分をプラスに評価する傾向があると聞いたことがある。この結果の読み方というのは非常に難しいところなのではないかと思う。この6月の「食育月間」、毎月19日の「食育の日」というのは、私どもとしても、千葉市と一緒に、これからどのように認知度を上げていくか、努力が必要なのではないかと感じている。

(4) その他

事務局より、各委員に食育関係のデータの提供と、骨子案に対する意見・要望の提出を依頼した。また、会長が千葉県食育推進計画の策定状況等を説明した。

【発言要旨】

<事務局>

皆様方からいただいた意見を計画に反映させていきたいと考えている。今日は、説明時間が非常に短かったので、他にもご要望やご指摘があればいただきたい。また、委員の皆様方で、千葉市に提供しても差し支えない食育に関するデータをお持ちであれば、ご提供願いたい。

<委員>

子供の写真や子どもの絵を入れるということならば、協力させていただく。

<会長>

千葉県の食育推進計画は、一般の方が読みたいと思うような、読みやすいレイアウトでなければいけないのではということになり、6月に会議を開催したあと、中身を読みやすくする作業をしている。また、食育を推進するための媒体や資料はすでにできている。お配りした「おさかなレシピ」は、若い母親たちが離乳食などで魚を利用してくれないということで、どうしたら魚を食べてもらえるかと、水産課から依頼があって作成したものである。県としては、食育推進計画をただ作ったというだけでなく、推進していくための様々な資料を作ったり、企業との連携も盛んに考えなければ、食育の推進はできないのではないかと考えている状況だと思う。

以上のとおり議事を進め、午後3時30分に閉会した。

問い合わせ：保健福祉局健康部健康企画課健康増進班

電話 043-245-5208 F A X 043-245-5588